

為替週間展望 = ドル円は150円を挟んでの振幅か

[8月5日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		7月29日～8月2日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	153.82	155.22(30)	148.51(1)	149.09	-4.67
ユーロ・ドル	1.0861	1.0870(29)	1.0778(1)	1.0797	-0.0059

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	35,909.70	-1757.71	日本10年債利回り	0.951	-0.116
ダウ平均株価	40,347.97	-241.37	米10年債利回り	3.976	-0.218

<来週の主要経済統計等>

- 5日 中国7月財新サービス業PMI
独7月サービス業PMI 確報値、ユーロ圏7月サービス業PMI 確報値
英7月サービス業PMI 確報値
ユーロ圏6月生産者物価指数
米7月サービス業PMI 確報値
米7月ISM非製造業景況指数
- 6日 日本6月勤労者世帯家計調査
豪中銀(RBA)政策金利
スイス7月雇用統計
独6月製造業受注指数
スイス6月小売売上高
ユーロ圏6月小売売上高
カナダ6月貿易収支
米6月貿易収支
- 7日 NZ第2四半期雇用統計
中国7月貿易収支
日本6月景気動向指数
独6月貿易収支
カナダ7月Ivey購買部協会指数
- 8日 日本6月経常収支
独6月鉱工業生産指数
米新規失業保険申請件数
- 9日 中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数
独7月消費者物価指数確報値
カナダ7月雇用統計

【前回のレビュー】ドル円は200日移動平均線(151.60近辺)近くまで下落しており、10日の161.80台から10円近い下げとなっている。日米の金融政策会合の結果次第ながら、ドル円は高値圏からの調整がかなり進んできたこともあり、一段の大幅安は想定しにくい。戻りの動きも限定的とみられ、直近の安値圏でのみみ合いで推移するとした。

【ドル円は一段と円高が進行】

7月30日のNY時間にNHKや日経新聞などから「日銀が0.25%の利上げを検討か」といった観測記事が報じられた。複数メディアで報じられたこともあり、円買いの動きが進行した。ドル円は154円台半ばから152円台前半まで下落した。また、31日付就任する三村新財務官の「円安はデメリット目立つ」との発言も円買いつな

がった。

7月31日に日銀金融政策決定会合の結果が公表された。日銀は政策金利を0～0.1%から0.25%に引き上げた。なお、前回の会合で予告していた通り、国債買い入れの減額も決定した。「原則として、四半期ごとに4000億円程度ずつ減額し、2026年1～3月期に3兆円とする」といった計画も発表した。

植田日銀総裁は記者会見で、「経済・物価見通しを実現していけば、引き続き政策金利を引き上げる」「為替円安もあり輸入物価が再び上昇、物価の上振れに注意が必要」「年内にもう一段の金利調整あるかどうかはこれからのデータ次第」「先に慌てて利上げすると、急激な調整強いられるリスクがある」「金利の水準は実質金利でみれば非常に低い水準での調整なので、景気に大きなマイナスの影響を与えるということではない」と述べた。

ドル円は日銀の利上げ発表後に154円手前まで急伸して、そこから急落するなど、荒れた動きを見せた。その後はドル売り円買いの流れが続いて、31日の夜には149.60台まで下落した。植田総裁の発言は市場の想定よりもタカ派的と捉えられたようだ。

日本時間の1日午前3時に米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果が公表された。予想通り政策金利は5.25～5.50%に据え置きとなった。据え置きは8会合連続となる。FOMC声明では「二大責務の両方のリスクに留意する」と述べる一方で、「インフレ鈍化への確信が高まるのを待つ」との文言に再言及していたことから、いったんドル買いの反応が見られ、ドル円も151円台に戻りを見せた。

その後、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は記者会見で、9月利下げの可能性に言及したことから、市場は敏感に反応した。議長は「利下げ時期は近づいている。9月に利下げが選択肢になる可能性がある」と述べた。この後、ドル売り円買いの流れが続いて、1日の東京市場の午前には148円台半ばまで下落した。売り一巡後は下げ渋りから150円台後半まで上昇している。

ドル円は11日の高値161.70台から8月1日の安値148.50近辺まで13円以上の下落を見せた。下げが続いてきたことで、反動高の動きになりやすい地合いとなっている。一方で、戻したところでは売り圧力に押されやすいとみられ、しばらくは150円を挟んでの振幅が続くこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、146.00～153.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、5日に米7月サービス業PMI確報値、米7月ISM非製造業景況指数、6日に日本6月勤労者世帯家計調査、米6月貿易収支、7日に日本6月景気動向指数、8日に日本6月経常収支、米新規失業保険申請件数などがある。

【ユーロドルは一段と下値を探る展開か】

ユーロドルは下落基調で推移している。7月17日に1.0940台まで上昇した後、修正安の動きに転じている。21日線を割り込んだ後も下値を探る展開を見せている。ドイツの長期金利の低下、米国に比べてドイツやユーロ圏の相対的な景気の弱さなどが重石となったようだ。

こうした中、戻したところでは下向きで推移する5日移動平均線に上値を抑えられて、軟調な流れが継続している。こうした動きが続いて、ユーロドルは一段と下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650～1.0875ドル。

8月1日の英金融政策委員会（MPC）で英中銀は0.25%の利下げを決定した。票割れは5対4の僅差で、4名の委員は据え置きを主張していた。ペイリー英中銀総裁は、「利下げの決定は微妙なバランスだった」「急過ぎや過剰な利下げには慎重」「現時点での利下げに十分なほどインフレ圧力は緩和した」と述べている。

英中銀の政策金利発表を控えて、ポンドはロンドン朝方から売りが強まり、1.28

台半ばから1.27台半ばへと下落した。利下げを見越してボンド売り圧力が強まった
ようので、利下げ発表後は逆に買い戻しの動きからボンドドルは1.28台前半まで上昇
した。その後は再び売りに押されて、1.27台前半まで下落している。ボンドドルは
戻しては売られる展開が続いており、軟調な推移が継続するとみられる。ボンドドルの
目先の予想レンジは、1.2500～1.2850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、5日に中国7月財新サービス業PMI、独
7月サービス業PMI確報値、ユーロ圏7月サービス業PMI確報値、英7月サービス
業PMI確報値、ユーロ圏6月生産者物価指数、6日に豪中銀（RBA）政策金利、独
6月製造業受注指数、ユーロ圏6月小売売上高、7日にNZ第2四半期雇用統計、中国
7月貿易収支、独6月貿易収支、8日に独6月鉱工業生産指数、9日に中国7月消費者
物価指数、中国7月生産者物価指数、独7月消費者物価指数確報値、カナダ7月雇用統
計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報
の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者が
これらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく
転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レ
ポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆
送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。